

4 - 3 1987 年 5 月伊豆半島東方沖の群発地震活動

Swarm Activity off the East of Izu Peninsula, May, 1987

国立防災科学技術センター

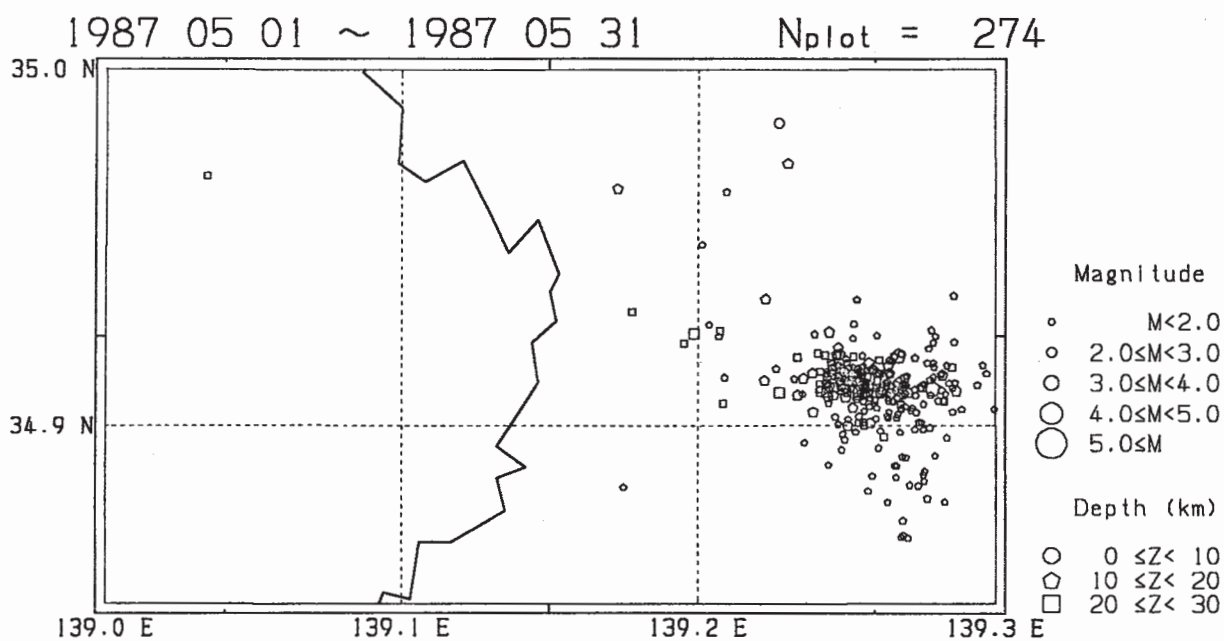
National Research Center for Disaster Prevention

1987 年 5 月 10 日頃から、伊豆半島東方沖で再び群発地震活動が始まった。第 1 図に今回の活動の震央分布、第 2, 3 図にそれぞれ東西と南北の断面図を示す。5 月 11 日から 15 日の分は、未処理のためデータが欠落しているが、震源分布の大勢は変わらないと思われる。活動域の震央分布の拡がりや深さの深さは 5km 程度で、深さの方も 15km から 20km に到る 5km 程度に分布している。

第 4 図は、この活動域内に発生した幾つかの地震について発震機構解を求めたものである。ほぼ北西－南東方向に主圧力軸を有するストライクスリップ型のものが大勢を占めている。このことは、群発域 ($34.89 \sim 34.93^\circ \text{N}$, $139.23 \sim 139.29^\circ \text{E}$, $H=15 \sim 21\text{km}$) 内で発生した地震のうち、これまでに発震機構解の求まったもの 73 個について、その P 軸・T 軸の分布を示した第 5 図からもうかがえる。

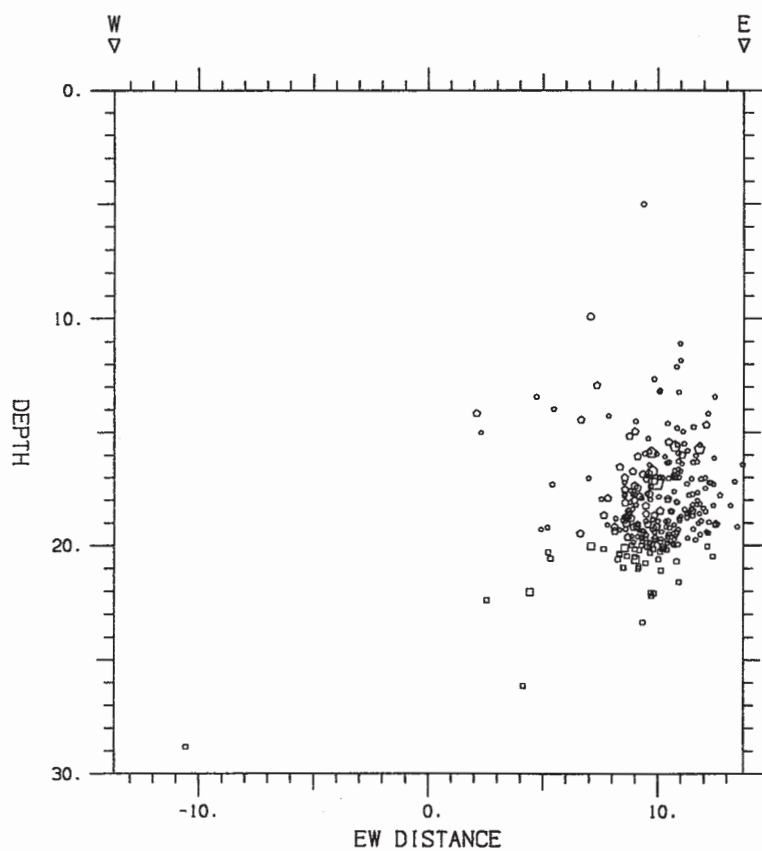
第 6 図は、1980 年以降に伊豆半島東方沖で発生した 9 回の群発地震の活動を今回の活動と比較したものである。従来の活動域に比べ、沖合にのみ活動が集中している点が特徴的である。

(岡田義光)



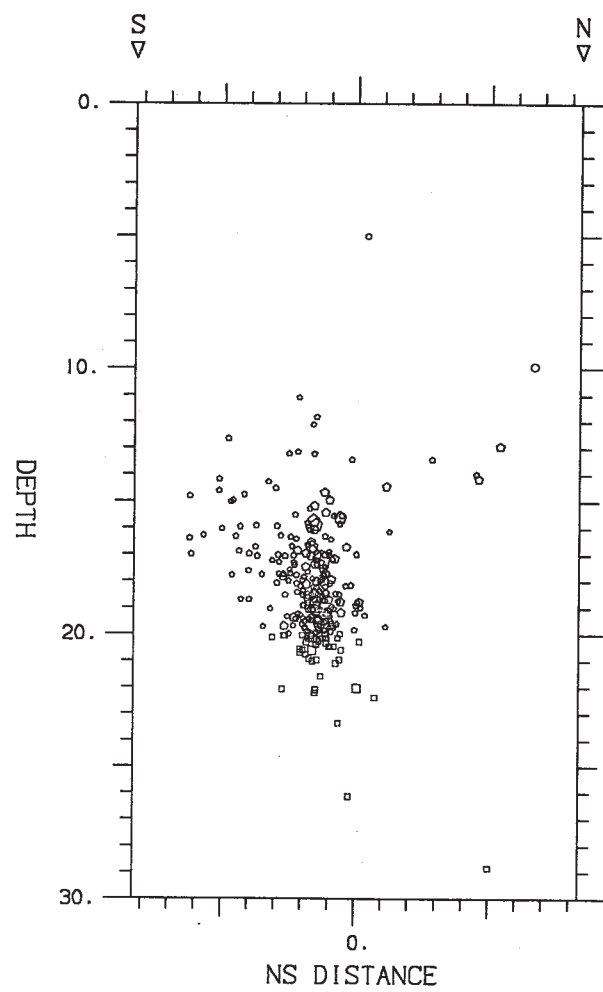
第1図 震央分布図 (1987年5月1日～5月31日、ただし5月11～15日分のデータは未処理)

Fig. 1 Epicentral distribution (May 1 - 31, 1987; data for May 11 - 15 are excluded).



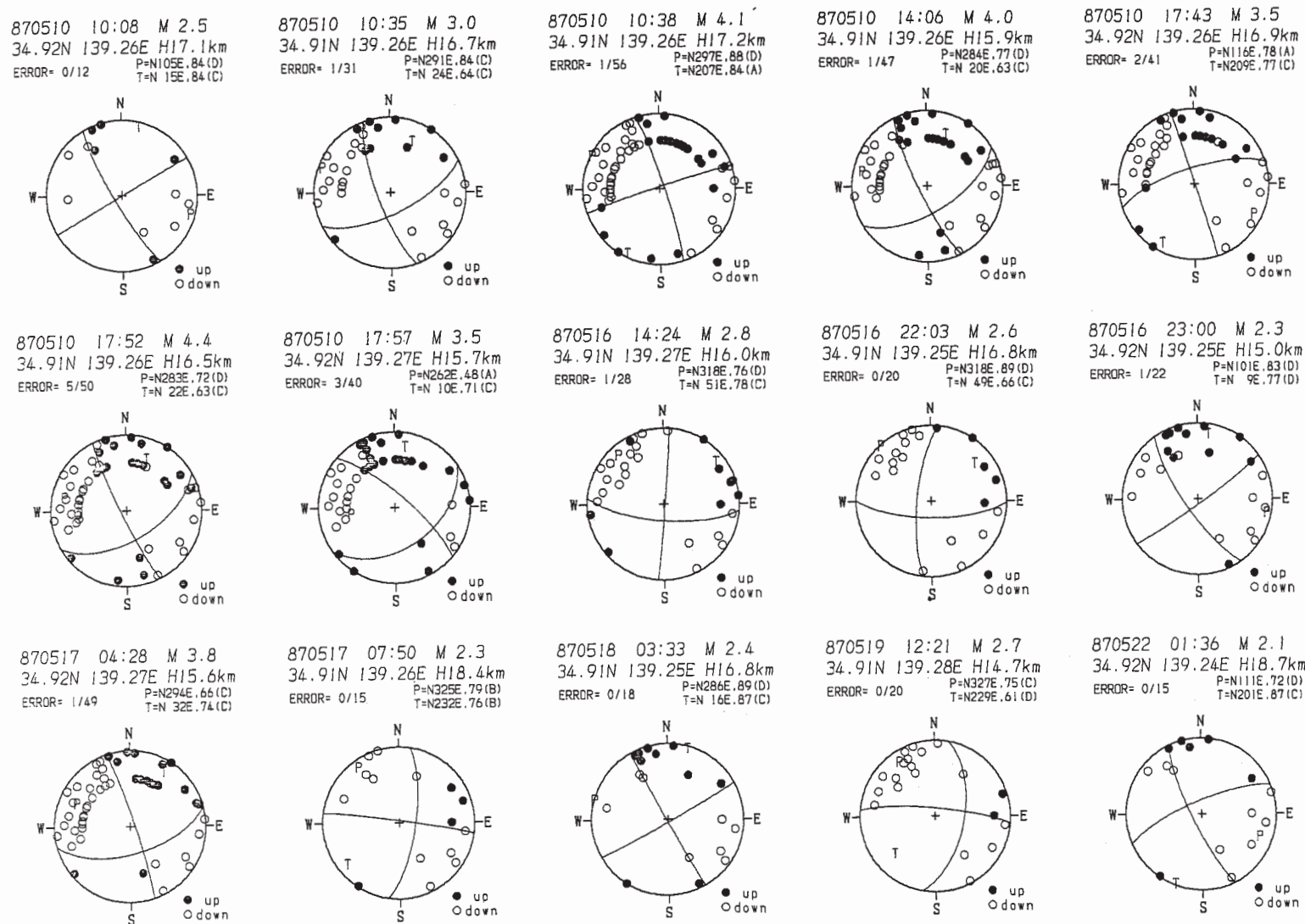
第2図 第1図の東西断面図

Fig. 2 Vertical section of Fig. 1 along the EW direction.

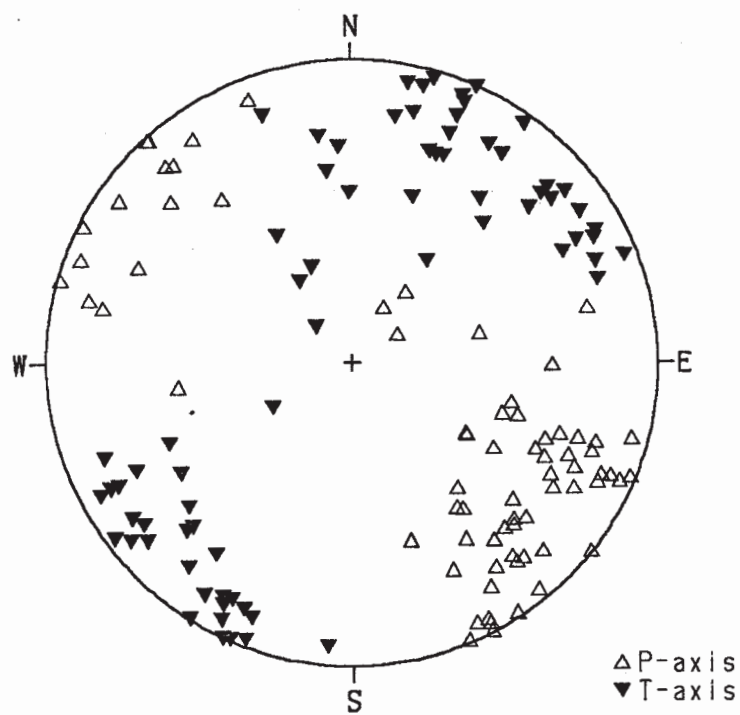


第 3 図 第 1 図の南北断面図

Fig. 3 Vertical section of Fig.1 along the NS direction.

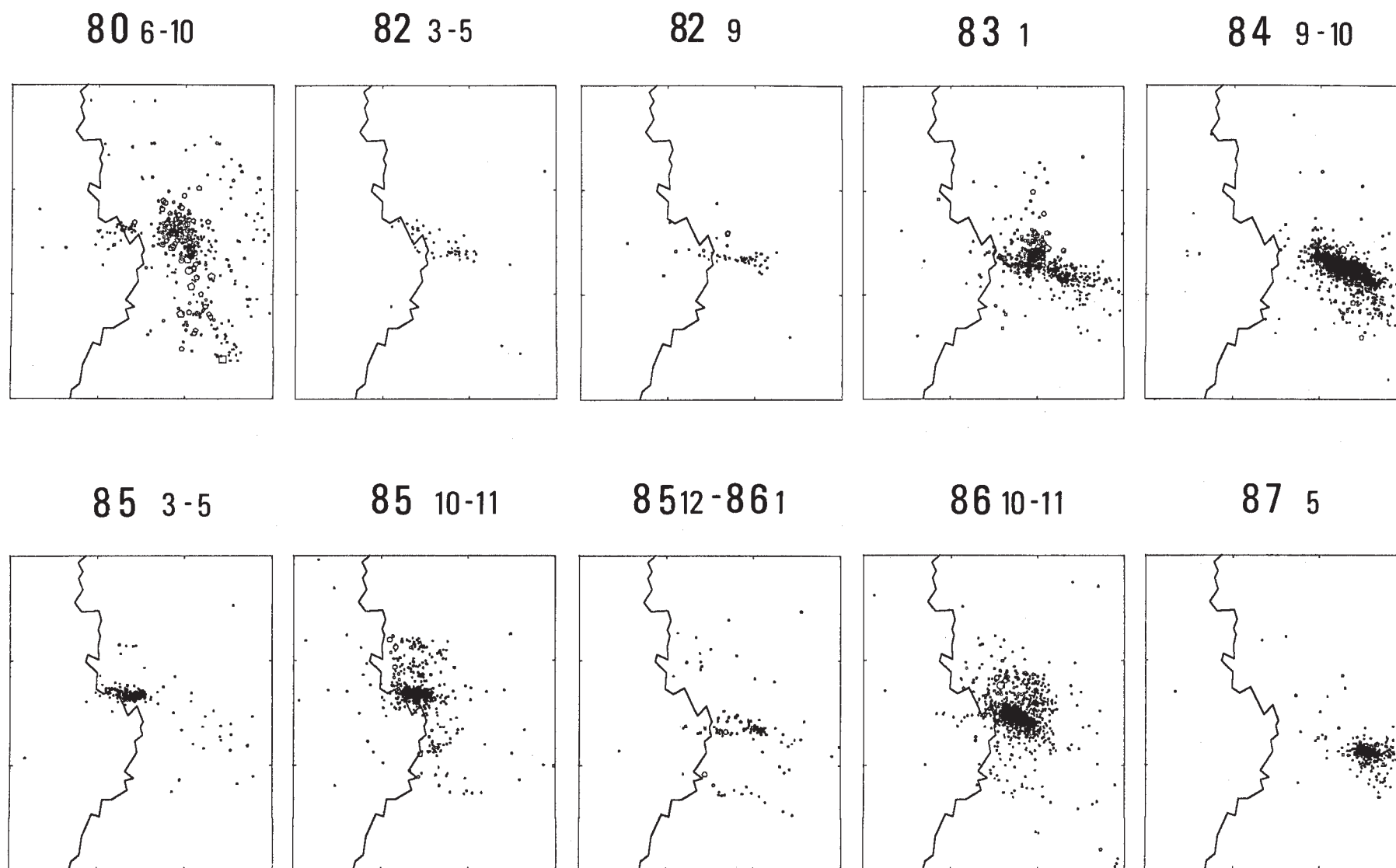


第4図 いくつかの地震の発震機構解 (下半球等積投影)
Fig. 4 Focal mechanism solutions projected on a lower hemisphere.



第5図 群発域の地震のうち発震機構解の求まったもののP軸・T軸分布図

Fig. 5 Distribution of P- and T- axes of focal mechanism solutions.



第 6 図 1980 年以降の群発地震活動域の推移

Fig.6 Change of the swarm activity are since 1980.